

# 第一章

## 序章

### A. 研究の背景

#### 1. はじめに

インドネシアでは日本語の学習者が増えてきている。2009 年度（2009 年 9 月～2010 年 1 月）に国際交流基金（ジャパンファウンデーション）が日本語を学習しているインドネシア人の人数は 716.353 人で、これは世界中で 3 位だという海外日本語教育機関調査を行った。

日本語の習得には必要なものが漢字だけでなく、文法、読解、会話などの学習教育がある。特に会話の授業では話すだけでなく、できるだけきれいに発音できるように指導した方がよいだろう。発音で学習するものはいろいろなことがある。例えば、母音と子音の正しい出し方や、拍、リズム、アクセント、イントネーションなどである。インドネシアの大学や高校では日本語会話の授業でこのような発音練習をあまり行わない。

学生や生徒の発音をできるだけ上手にしてあげたい、そのために音声を教える方法が知りたいと思っている人が多いが、発音をどこまで治したらいいかについては、いろいろな意見がある。

『音声を教える』（国際交流基金 2009）の中で学習者の発音をどこまで治すかについて、現在のコミュニケーション中心の日本語教育の

中では、1つの代表的な考え方として、「コミュニケーションができればよい」「意味が通じればよい」という立場がある。コミュニケーションができれば発音は治さなくてもいいかどうかについて、考えよう。発音から少しはなれて、文法や文字の誤りについて考えよう。次の文を見て、言いたいことは分かるだろうか。

- A. 「きのうは暑いでしたが、今日は寒いになりました。」
- B. 「今日、朝、起きます、時計、9時、えー！急ぎます、服着ます、ご飯食べません、家から出ます、走ります、走ります、走ります、学校着きます、大変。」
- C. 「このピデオを無断で複製することは著作権法で禁止さねています。」

上の文は多分どれも大体意味が分かったのではないと思う。おそらく、多くの方は「直した方がいい」と考えたと思う。では、意味が伝わっても、直した方がいいのは、なぜだろうか？その答えとしては、例えば次のようなことが考えられるだろう。

- 正しい文法や文字を使うほうが、意味が確実に伝わりやすい。
- 意味が分かるかもしれないが聞き手／読み手は疲れる。
- 正確な文法や文字を使ったほうが、信用が高くなる。
- 間違った日本語を身につけてしまうと、後から直すのが難しい。
- 正確な日本語を身につけなければ、もっと上のレベルに進めない。

上の例は、文法と文字の例であった。しかし、おそらく上のほとんどの理由が、発音についても言うことができるだろう。

実際にインドネシア人日本語学習者は長母音や短母音や促音など、区別できないことがある。「つ」の子音が言えない学習者もいる。その理由として考えられることは、インドネシアの単語には長音、促音、「つ」の子音がないからである。さらに、サ行・シャ行、ザ行・ジャ行の言い方が間違っても、あまり気にしないことがあげられる。このため、特に日本人と話すとき大きな誤解を生むことになるかもしれない。話すときだけでなく、書くときにも困ることがある。これらの点をそのままにしておいたら、コミュニケーション力が上がらない。

『音声を教える』（国際交流基金 2009）の中で「間違った日本語を身につけてしまうと、後から直すのが難しい。正確な日本語を身につけなければ、もっと上のレベルに進めない」と言っているのは正しい。なぜかと言うと、正しい音で伝えなければ誤解が生まれるからだ。例えば、まだ平仮名しか学習していない学習者は、「高校」と話したり書いたりしたいときに、長音がどこにあるかわからずに、「こうこ」と話したり書いたりする。これでは単語と文の意味が変わってしまう。正しい音をきちんと学習しなければ、上記のような結果が出てしまう。

筆者はインドネシアのバンドンの BLCI (Bandung Language Center Insitute) という日本語学校でディクテーションによる発音のトリートメントを行ったことがある。ここでは、その際に明らかになったイン

ドネシア人学習者の間違いの分析結果を報告し、あわせて、発音矯正に有効な方法を考えてみたい。

## 2. ディクテーションによる発音トリートメント

### a. 実践研究の概要

BLCI の初級日本語学習者 24 名を対象に、ディクテーションを行い、日本語の言葉の聴き間違いの分析を実施した。出席者の数は回によって違うが、トリートメントは全 10 回、毎回 30 分であった。

トリートメントの問題はひらがなの言葉が 10、カタカナの言葉が 10、計 20 語であった。問題の単語は長音を含むもの 4、促音 4、特殊音 4、拗音 4、摩擦音と歯擦音 4 であった。筆者は単語を一回目は普通のスピードで、二回目はやや遅いスピードで、三回目は普通のスピードで計 3 回言った。そして、学習者は聞いたとおりに紙に書く。10 回目の問題はそれまでのものに比べ、学習者にとって一番難しい聞き取りであった。

### 3. 分析結果

分析の結果、学習者が一番聞き間違いやすいものを以下のカテゴリーに分けた。

#### a. 長音の聞き間違い

表 1

正しい言葉	間違い	学習者の数
びじゅつ	びじゅうつ	6/ 21
こうつう	こうつ	10/ 20
つよい	つようい	7/ 23
ジャーナリスト	ジャーナリスト	12/ 21
ギター	ギーター	3/ 22
ニュージーランド	ニュジラシード	13/ 20

このカテゴリーの一番大きい原因はアクセントの影響である。高い声で言うと、学習者の耳に長音に聞こえやすい。低い声だと、長音が聞けなくなる。

## b. 促音の聞き間違い

表 2

正しい言葉	間違い	学習者の数
しゅっちょう	しゅちょう	7/ 21
いらっしやい	いらしやい	6/ 22
キャッシュカード	キャッシュカード	7/ 23
がくせい	がつくせい	4/ 22
ボクシング	ボックシング	7/ 21

促音の後に摩擦音か破擦音があると、学習者の耳には長音に聞こえる。促音が増える場合は母音の無声化の問題である。

## c. 拗音の聞き間違い

表 3

正しい言葉	間違い	学習者の数
みやく	みやく	5/ 21
りゅう	りゅう	3/ 23

拗音の混同の原因は両唇音か歯茎音の子音である。このような子音に続く拗音は言いにくく、力が必要なので、学習者の耳に聞き間違いしやすい。

d. 摩擦音と破擦音の聞き間違い

表 4

正しい言葉	間違い	学習者の数
しゅっちょう	すっちょう	11/21
つよい	すよい	5/19
つづく	すづく	9/20
ちゅうしゃじょう	ちゅうさじょう	4/20
ジャパン	ザパン	3/21
タックス	タックツ	5/21
キャッシュカード	キャスカード	12/23

インドネシア語ではシャ・シュ・ショとサ・ス・ソの言い方はあまり区別しない。特にバンドン人はシャ・シュ・ショとサ・ス・ソの違いをあまり知らない。

●「タックス」の場合は母音の無声化の原因で「クツ」になってしまう。

e. がなの書き間違い

表 5

正しい言葉	間違い	学習者の数
とおか	とうか	19/ 21
おうじさま	おおじさま	11/ 19
けいざい	けえざい	6/ 21
おねえさん	おねいさん	4/ 19
オークション	オーク X ヨアン	3/ 21
コンプレックス	コノプレックス	8/ 19
インスピレーション	インスピラーチオン	9/ 23

学習者は「お」の長音の書き方がまだ分かっていない。日本語では「え」は長音の場合は「えい」に書くが、「ええ」と読むことを知っている学習者は多い。「おねえさん」の場合は特別であり、学習者は「え」の長音のルールは分かっているが、表記を間違っただと言える。

カタカナが上手にかけない学習者が多い。カタカナ能力はひらがな能力より低い。なぜかと言うと、初級の日本語教科書にはカタカナはあまり出てこない。つまり、学習者はカタカナにまだなれていない。

BLCI における実践研究の結果に基づき、筆者はインドネシア人学習者の発音指導に必要な 7 カテゴリーの範囲を決定した。それは、「長音」、「促音」、サ行とシャ行の混同、ザ行とジャ行の混同、「つ」の子音、リヤ・リュ・リヨとリャ・リユ・リョの混同、ビヤ・ビユ・ビヨとビャ・ビュ・ビョの混同である。これらの発音上の問題点を改善するためにメディアで発音指導を行うことを提案し

たい。メディアというのは学習者が易しく楽しく学習できるように様々な道具を使うことである。筆者は、オーディオというメディアを使おうと考えている。オーディオを使うと学習者はより勉強しやすく、分かりやすくなると期待する。

## B. 研究問題及び研究の制限

### 1. 研究問題

- a. 国立カタパン 1 技術高校の 3 年生を受ける事後テストに、学習者の日本語の発音能力を明確するか。
- b. オーディオ・リンガル・アプローチで国立カタパン 1 技術高校の 3 年生を受ける事後テストに、学習者の日本語の発音能力に重要な差があるか。
- c. オーディオ・リンガル・アプローチでは国立カタパン 1 技術高校の 3 年生の日本語の発音に関する能力を上達させるために効果的があるか。

### 2. 研究の制限

本研究は「さくら」と言う教科書における最初教材に基づいて、オーディオ・リンガル・アプローチで学習者の日本語の発音する能力を明らかにする。本研究において、「長音」、「促音」、サ行とシャ行の混同、ザ行とジャ行の混同、「つ」の子音、リヤ・

リュ・リョとリャ・リュ・リョの混同、ビヤ・ビュ・ビョとビヤ・ビュ・ビョの混同に焦点して研究を行う。

## C. 研究の目的及び研究の成果

### 1. 研究の目的

本研究の目的は次の通りに述べる。

- a. 国立カタパン 1 技術高校の 3 年生を受ける事後テストの学習者の日本語の発音能力を明確する。
- b. オーディオ・リンガル・アプローチで国立カタパン 1 技術高校の 3 年生を受ける事後テストの学習者の日本語の発音能力に重要な差を明確する。
- c. 学習者の日本語の発音の能力を上達させるためのオーディオ・リンガル・アプローチの効果を明確する。

### 2. 研究の成果

#### 実践的成果

この研究の成果は日本語の教師や日本語教育機関に関して、学習の目標が達成できるように、日本語学習、特に日本語の発音に関する効果性の高いアプローチを提供し、各大学で応用できると期待される。

#### 理論的成果

外国語、特に日本語の学習における理論に対して、交互のアプローチを提供し、また理論的に本アプローチは学習者の外国語の言語音声システムを発音する能力が上達できると認められる。

#### D. 仮説

ギリシア語で「*HYPOTHESIS*」（一時的）及び「*Thesis*」（確言又は理論）という語句から来た言葉である。Buchari（2008 : 35）によると、仮説は研究における一時的の結果であり、科学的に検査する必要がある。

Sukardi（2008 : 42）によりと、仮説の位置から見ると次のように分けられる。

1. 研究の仮説
2. 統計仮説

●このような仮説は研究者に検査される二つ以上の変数がある。この仮説は次の四つに述べる。

a. ゼロ仮説 ( $H_0$ )

ゼロ仮説とは検査する変数に相違点が見られない。つまり、一つの変数は他の変数とは全く無関係であることを指示する。

b. 研究仮説 ( $H_1$ )

研究理論に基づいて、研究者の考え方やアイデアを表す仮説である。

c. 交互仮説 (H<sub>o</sub>)。

交互仮説とは、先行研究からの理論に基づいて研究する問題の一時的の答えとして使用される。この仮説は実践のデータに支持されない。

d. 方向仮説

各自の方向に導き、不各自な方向に導くことが本研究に採用する仮説は交互仮説であり、本研究に関して次の通りである。

H<sub>a</sub> : オーディオ・リングル・アプローチは日本語の学習者の日本語の発音能力を上達させるのに効果がある。

## E. 研究法

### 1. 実験法

研究の中で方法というのは研究問題を答えるための道である。本研究では実験法を使う。研究の目的は使った方法、アプローチ、テクニック、又は教具の効果があるかどうかを確認し、結果がよければ、その方法、アプローチ、テクニック、又は教具は実際の授業で使えるようになる。

F a t h o n i (2006) によると、実験法というのは計画的に特別な状況の中である変数が他の変数に対して試み、影響があるかどうかを実験することである。G a y (2008) による、実験法は原因と結果の関係がある仮説を試みるのが一番言い方法である。実験法

の中で研究者はせめて一つ変数を操作し、コントロール変数に影響があるかどうかを見学する。

Emzir (2008) によると実験法は研究方法の中で研究者がよく使われてる。この方法は正しくするのなら、原因と結果に関係がある一番信じられる証拠の成果をあげられる。

Emzir (2008) によると実験の種類は次のように書いてある：

- a. 事前実験デザイン。このデザインは一つグループだけを研究する、がコントロールグループと比較することがない。
- b. 実際実験デザイン。このデザインはコントロールグループにも実験グループがある。二つのグループで変化があるかどうかを研究する。この研究は全ての変数をコントロールをし、影響があるかどうかを研究する。
- c. 本研究は議事実験 (Quasi sksperiment) という形にし、一つのサンプルのグループで実施する。  
本研究では事前研究を行われる。つまり、事前と事後と関係があるかどうかが見られる。

研究に段階は次のように書いてある。

- a. 経験による問題を見つけること。
- b. 研究する問題点を調べること。
- c. 研究の範囲を見つけること。
- d. 研究の仮説を決めること。

- e. 完全に実験研究の計画を作ること。
- f. 作った計画通りに実験研究をすること。
- g. データを分析すること。
- h. 研究の結果をまとめること。

本研究は日本語の発音能力を上達させるドリルテクニックの効果を明確するために行われる。

## 2. 研究用具

Mardalis (2003) による研究用具というのは図る道具である。研究用具で、研究者は定性又は定量を図る道具に対してデータが集められる。研究用具は正式で来た研究に必要とするデータを収集するために使用される。本研究に使用される研究用具は次の通りである。

### a. テスト

#### 1) 事前テストと事後テスト

事前テストは研究の扱いの作業を受ける前の学習者の発音能力を測るのに実践する。このテストは「さくら」の初級に基づいて、学習者が発音する20点構造し、学習者が正しく発音できると1点を挙げ、正しく発音ができない場合は0点を挙げる。事後テストは研究の扱いの作業を受けた後の学習者の発音能力を測るのに実施する。このテストは事前テストと同様に「さくら」に基づいて、学習者が発音する20点で構造する。さらに事前テストの結果と事後テストの結果を日本語母語話者にチェック

され学習者が正しく発音できると1点を上げ正しく発音できない場合は0点を挙げる。

## 2) トリートメント

オーディオ・リンガル・アプローチの段階は次のように書いてある。

- 1) ミム・メモ練習で覚える。
- 2) 小さなことまで発音を練習する。
- 3) ドリルで文型を練習する。
- 4) 習慣的に誤りを消す。

オーディオ・リンガル・アプローチの練習は次のように書いてある。

- 1) ミム。メモ練習
- 2) 文型練習：
  - a) 代入練習
  - b) 転換練習
  - c) 応答練習

トリートメントは7回行う。毎トリートメントは「長音」、  
「促音」、サ行とシャ行の混同、ザ行とジャ行の混同、「つ」の子音、リヤ・リュ・リヨとリャ・リユ・リョの混同、ビヤ・ビユ・ビヨとビャ・ビュ・ビョの混同という問題点によって行う。

### b. アンケート

アンケートは研究対象を確認するために使用する。オーディオ・リンガル・アプローチに関する学習者の対応を求めるために採用する。

被験者に挙げるアンケートの形は次のように書いてある。

- 1) 日本語の発音の教え方についての意見。
- 2) オーディオ・リンガル・アプローチで発音の教え方についての意見。
- 3) オーディオ・リンガル・アプローチで発音の教え方についての意義や提案など。

#### F. 研究の対象及びサンプル

Fathoni (2006) によると個体数は二種類がある。それはサンプリング個体数とサンプリング目標である。サンプリング個体数というのは堅急場にある全ての要素である。一方、目標サンプリングというのは研究でサンプルに対して予想する媒介変数のサンプリング個体数である。要するに、サンプルは目標個体数にとって適法の代表である。

本研究場はバンドンのカタパン Km. 13, 52010 学年度国立カタパン 1 技術高校でサンプルは 12 人の三年生繊維 1 組である。そのサンプルを選んだ理由は日本語の勉強にいい能力を持っているからである。

## G. 研究用語の定義

### 1. 発音

人間が音声器官を使って初する言語音と定義されています。

### 2. 効果性

効果性と言うのは「影響、成果、印象、有効」などの有効力が見られると言うことである。いわゆる、効果性というのは提唱した結果が目標に適切だと言う関係を表し、目標が達成できるかできないかという結果の次第で効果性を決められる。

### 3. オーディオ・リンガル・アプローチ

オーディオ・リンガル・アプローチと言うのは口頭会話能力の養成を優先し、文字や表記の教育は口頭会話能力が安定してから行う活動である。この活動の目的は学習者の特定の能力を習得できるように実践する。(Hatimah, 2003: 67)。本研究において次の3種類のテクニックを採用して研究する。

#### 1. 繰り返しのドリル

学習者は教師が言ったとおりに繰り返して言うことです。

#### 2. 代用のドリル

教師がある文を発言し、学習者に文のどこかを他の言葉で代えさせる。代用ドリルの目的は実践的に学習者が文の代用する部分に適切な言葉を入れられるように採用させる。

#### 3. 質疑応答ドリル

学習者にいくつかの質問で練習をさせる。この練習に学習者が教師の質問に適当に答えなければならない。

#### 4. 日本語の発音

日本語の「音」を身につけさせるのが目的であるが、これには学習者の母語と日本語との違いを考慮して指導することが望ましい。方法としては、(1) ミム・メモ練習やある種のLL学習のように専ら模倣に集中し、それを通して日本語の「音」を習得する方法；(2) 日本語の習得すべき特性をミニマル・ペア練習によって認識し、その区別をを訓練する方法などがある。日本語は音層の数も少なく、音節の構造も単純なので学習しやすいとされているが、拍の等時性や高低アクセントなどの習得は、学習者の母語によっては非常に困難を感じる場合もある。発音は正確であることが望ましいが、初級から完全に正確な発音を求めると、習得能力の低い学習者や音声的に大きいな違いのある母語をもつ学習者には非常な苦痛になる。それが原因になって学習行動の低下を招く恐れもあるので、最初の到達目標を「聞いて意味が分かる程度の正確さ」に置くことも一つの方法である。

##### a. 長音

日本語の音をカタカナ表記したときに、「ー」で表される音。音素記号では/R/と表す。直前の音節の口の形でそのまま発音する。長音一つをモーラと数えるが、単独では使われない。

b. 促音

日本語の音をかな表記したときに「っ」で表される音。音素記号では/Q/と表す。日本語の場合は通常母音の後ろ、かつ/p、t、s、k/の前だけに現す。したがって、本来の日本語の発音では、英語のB a gはバック、B e dはベットのように発音される。ただし、最近の外来語としては、バッグ、ベッドと発音されることもある。促音一つを1モーラと数えるが、単独では使われない。

c. サ・シャ行の子音

サ、ス、セ、ソの子音は、舌の先と歯茎で作る音である。調音法は、舌と歯茎で狭いすぎ間を作って出す音、摩擦音と言う。シ、シャ、シュ、ジョの子音は、調音法は「s」と同じ摩擦音ですが、音を作る場所が違う。「シ」のときには舌の先は下の歯の裏に収まったままで、下の前の方が盛り上がり、歯茎のもっと後ろの方の、歯茎硬口蓋という場所で作る。

d. ザ・ジャ行の子音

ザ、ズ、ゼ、ゾの子音は有声音で、舌先を歯茎について、空気の流れを1回ふさいでから、その後に摩擦音を作って続ける破擦音である。ジ、ジャ、ジュ、ジョの子音は、調音法はザ、ズ、ゼ、ゾの子音と同じ有聲の破擦音で、調音点はシ、シャ、シュ、ジョの子音と同じ歯茎硬口蓋である。

また、ザの子音もジの子音も、ことばのはじめの位置（語頭）にきたときは、いつも破擦音で発音されるが、ことばの途中（語中）にきたときは、舌で息の流れを止めないまま作られる、摩擦音「z」（ザ行）、「z」（ジャ行）で発音されることも多い。

e. ツの子音

ツの子音は、タ、テ、トの子音とも、チの子音とも違う。タ、テ、トの子音「t」と同じように、舌の先を歯の裏から歯茎あたりにつけて息の流れを止めるが、音を出すときに、そのすぐ後に摩擦音「s」を続ける破擦音である。

f. バ行の子音

バ行、パ行の子音を一緒に見ていく。これらは両方とも、唇を閉じて作る破裂音である。バ行の子音は音を作るときに声が出ている有声音、パ行の子音は声が出ていない無声音である。

ビ、ビヤ、ビュ、ビョおよびピ、ピヤ、ピュ、ピョの子音は、調音点と調音法は「b」「p」と同じですが、子音を作るとき舌の形が、「イ」の形をしている。つまり、「b」「p」が硬蓋化した「b」「p」である。

g. ラ行の子音

ラ行の子音は、歯茎の後ろの部分に舌先を短い時間だけ 1 回ポンと軽く当て、すぐに離して作る音である。舌先が歯茎をはじくように作ることから、このように作る音をはじき音と呼ぶ。

リ、リャ、リュ、リョのときは、やはり口蓋化した子音になる。舌の前のほうの面が「イ」のときのように盛り上がった形になったまま、舌先で歯茎を軽くはじいて作る。

なお、「r」の調音点は「歯茎」となっているが、同じ歯茎音の「t」「d」「n」と比べると、実際には音を作る場所が少し違う。日本の「t」「d」「n」のときは、舌の先が歯の裏～歯茎あたりについて音を作るが、日本の「r」のときは、舌の先は歯に触れることはない。歯茎のやや後ろの、少しまるく盛り上がった部分をはじいて作る。